

## 豊橋市地球温暖化対策推進会議 会議録

日 時：令和4年12月1日（木） 午前9時30分～11時

場 所：豊橋市役所 東128会議室

委員数：19人／20人（内オンライン参加3人）

### ○開会

### ○委員紹介

### ○議題

#### （1）豊橋市の温室効果ガス排出量の実績について

（事務局から別紙資料に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明について何かご質問はないか。

委 員：資料の参考データとして3ページに掲載されている電気の排出係数が1年度ずれているのではないか。

事務局：排出係数の年度については、報告年度を記載しているため、実績年度より1年遅れになっている。

委員長：それでは資料にそのように記載したほうがよいのではないか。  
他にご質問、ご意見はないか。

委 員：代替フロン等4ガスにおいて、活動量の増加に伴いHFCが増加しているとあるが、大気に開放されなければ問題ないのではないか。

事務局：温室効果ガスの排出量は、環境省が示している計算方法により算定している。HFCについては、エアコンの出荷台数などの活動量をもとに計算をする。おっしゃる通り、大気に出ていなければ影響はないが、算定マニュアルに従うと、出荷台数が6%程度増加しており、温室効果ガスの排出量についても増加してしまう。

委員：温室効果ガスの推移において、基準年度（2015年度）の推計方法が変更したことで農林水産業部門が増加しているが、なぜか。

事務局：温室効果ガス排出量の推計に使用している、都道府県別エネルギー消費統計の参考統計である総合エネルギー統計において、これまで対象外となっていた個人経営体等のエネルギー消費量が対象になったためである。

## （2）豊橋市地球温暖化対策推進計画の関連施策の進捗状況について

（事務局から別紙資料に基づいて説明）

委員長：ご質問、ご意見はないか。

委員：自分の住んでいる地域は1人1台車がないと生活しづらい。これを解消するには公共交通機関を整備してもらうしかない。コミュニティバスについても検討がされているが、採算が合わないことが課題となっている。温室効果ガスの排出抑制に協力したいが、公共交通機関が整わないと難しい面がある。環境部だけでなく、都市計画部とも繋がりを持って問題を早急に解決してほしい。

事務局：難しい側面であるがしっかり取り組まなければならない。公共交通機関の普及については都市計画部都市交通課で取り組んでいる。環境部として

は次世代自動車の普及を目指しているが、価格の問題がある。国と市から補助金を交付しているがそれでも高価である。さらに補助を拡充していくことが必要である。

委員(都市計画部長)：公共交通機関については、新型コロナウイルスの影響を受けており、利用者数は感染症拡大前の8割程度しか戻っていない。都市交通課で利用促進を実施しているが、それと並行して都市計画課では「歩いて暮らせるまち」区域として人を集約し、公共交通の利用を促進する施策を進めている。この政策により環境に優しいまちづくりを進められればと思う。

委員長：委員の皆様の所属する団体などの取組について紹介をお願いしたい。

委員：事業で使用する自動車においてLPG自動車や電気自動車を導入している。

委員：カーボンニュートラルに特化した部署を社内で設立し、積極的に環境問題に取り組むことを考えている。

委員：商店街のLED化がほぼ完了した。駅前大通や広小路など市の中心部での自転車利用の整理が課題になっているがなかなか解決できない。自転車を推進するのであれば、インフラ整備を推進していただきたい。

委員：住民としては、省エネで協力していきたい。家庭内の家電をどのようにすれば消費電力を削減できるかをわかりやすく広報など各家庭の目に触れるものでPRしてほしい。

ごみ減量についても、ステーションをみると分別が進んでいないものがある。地域資源回収だけでなく、ごみ収集で雑紙やダンボールの回収が

あってもいいのではないか。

事務局：家庭でできる省エネ活動については非常に大切。今年度は動物園などでイベントを実施して普及啓発を実施した。今後も引き続き力を入れて取り組んでいく。古紙回収に関しては、地域資源回収以外にもスーパー等で回収が行われている。行政としては、そういったところの情報を集めてマップを作成する等、情報収集と発信を行っている。

委員：省エネは国の法律もあるのでできることから取り組んでいる。全社的にはGX（グリーントランスフォーメーション）にも取り組んでいくことを考えている。

適応策として熱中症が増えているとあるが、職場でも増加している。積極的に熱中症対策を実施しているところである。

委員：省エネ診断の実施実績が昨年と比較して今年度は増加している。エネルギーコストなどの観点から企業での省エネ対策に対する関心が高まっている。温室効果ガスはエネルギー起源の排出量が多い。エネルギー使用量を削減することが大切だと感じる。各市町村は省エネ設備の導入等に様々な補助金を交付しているが豊橋市はどのような状況なのか。

事務局：本市でも補助制度を実施している。今までは家庭向けの省エネ設備等に対する補助金を交付していたが、今年度から事業者向けの太陽光発電設備や蓄電池への補助事業を開始した。限られた予算の中ではあるが、温室効果ガス排出抑制に向けて効果的な補助金メニューについて継続して検討する。

委員：産業部門が温室効果ガスの大半を占めている。新型コロナウイルスの影響、人材不足や資源の価格高騰によりカーボンニュートラルやGXにつ

いて中小企業はなかなか進められない部分もある。まずは中小企業に向けた普及啓発や取り組みを後押しできる施策を考えていきたい。また、事業者向けの施策についても今後一緒に考えていきたい。

委員：家庭でのごみ減量や省エネについての取り組みについて女性はとても得意である。また、市からの情報発信についても団体をぜひ活用してほしい。

委員：交通事業者は新型コロナウイルスで非常に厳しい状況にある。しかし、公共交通が発展することで温室効果ガスの削減につながるのではないかなと思う。取組としては、オープンデータ活用し乗り継ぎ案内などの情報発信を強化している。また、駅周辺の駐輪場や駐車場の整備を進め、利用しやすい公共交通を目指している。  
事業におけるエネルギー使用量の削減としては、デジタルタコグラフを採用するなどしてエコドライブに努めている。

委員：温室効果ガスの約4割は発電事業によって排出されていると言われてい  
る。そこでカーボンフリーの発電を目指して電力会社は様々な取り組みを進めている。

委員：温暖化対策の取り組みとして、太陽光パネルの設置、LED化や高効率空調の導入、廃棄物の再利用に取り組んでいる。

委員：業務で使用する冷凍庫が非常に電気を使うが、省エネタイプの製品の導入やピークシフトによって節電に取り組んでいる。LED化や電気の間引きによる節電、消耗品のまとめ買いによって配送回数を削減することにより環境負荷低減に努めている。

委員：ペDESTリアンデッキ、汐川干潟や表浜の清掃活動やのんほいパークでのイベント等を団体で実施した。イベントの中で吉本興業の芸人とコラボしてゼロカーボンについて市民へ普及啓発を実施していたが親しみやすく、非常によかった。

委員長：委員の皆様からたくさんの意見が出た。市の施策に反映できるとよい。

### (3) その他について

事務局：参考資料2は本市の令和3年度の温室効果ガスの排出状況について紹介している。来年度は秋ごろに会議を開催する予定である。

委員長：議題等は以上になります。本日の会議全体を通じて何かご意見等はあるか。オブザーバーの方はどうか。

オブザーバー：愛知県では「あいち地球温暖化防止戦略2030」を改定している。今後の本県の施策を展開するにあたって、豊橋市とも協力していきたい。

委員長：副委員長はどうか。

副委員長：各主体で様々な取組があることがわかった。各家庭でも取り組める余地がある。自分もしっかりやっていく。

委員長：議事は以上になる。事務局へお返しする。

事務局：委員長ありがとうございました。環境部長からお礼のあいさつをさせていただきます。

委員(環境部長)：それぞれの立場から貴重な意見を出していただいたことに感謝する。市民・事業者への情報発信や補助金の交付、インフラ整備等をコツコツやっていくことが温暖化対策につながる。市としては、今年度、市民館に太陽光発電設備を設置した。来年度は保健所・保健センターの屋根上、ライフポートとよはしと豊橋総合動植物公園の駐車場にカーポート式の太陽光発電設備を導入する予定。景色が変わる。事業者の皆様の参考となるとよい。今後も本市環境行政にご協力を賜るようお願い申し上げます。

事務局：本日はお忙しい中、貴重なご意見をありがとうございました。これで地球温暖化対策推進会議を終了する。